

あたらしくはいった本 (令和5年10月 貸出開始資料から)

- 小説 葬式同窓会(乾ルカ/著) 悪逆(黒川博行/著) ハジケテマザレ(金原ひとみ/著) 列(中村文則/著) ふしだら・さくら(瀬戸内寂聴/著) 剣、花に殉ず(木下昌輝/著) 未来地図(小手鞠い/著) 間の悪いスフレ(近藤史恵/著) 猫弁と狼少女(大山淳子/著) 蜘蛛の牢より落つるもの(原浩/著) ミドルノート(朝比奈あすか/著) 少女、女、ほか(バーナディン・エヴァリスト/著) 書架の探偵、貸出中(ジーン・ウルフ/著)
- 随筆・詩などの文学 窓ぎわのトットちゃん続(黒柳徹子/著) 夢ノ町本通り(沢木耕太郎/著) なんかいやな感じ(武田砂鉄/著) ラジオご歓談!爆笑傑作選(みうらじゅん、いとうせいこう/著)
- その他の本 パンどろぼう せかいいちかわいいてづくりこもの(柴田ケイコ/原作) ようこそ!富士山測候所へ(長谷川敦/著) 大谷翔平語録(斎藤庸裕/著) 旅は暮らしの深呼吸(本多さおり/著) 天気には負けないカラダ大全(小林弘幸、小越久美/著) 逆境路線バス職員日誌(綿貫渉/著)

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

毎年恒例「おはなし会のクリスマス」を開催します

みんなでお話を聞いたり手遊びをしたりして、一緒に楽しいひとときを過ごしましょう。

日時 12月16日(土)午後2時～2時45分

場所 プラム・カルコア太宰府(中央公民館)4階多目的ホール

対象 幼児以上 内容 大型絵本、手遊びなど

参加費 無料 ※申し込み不要

としょかんカレンダー

令和5年	日	月	火	水	木	金	土
12	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太宰の日)は午後7時まで

幕府監察・小林甚六郎の太宰府詣りと五卿

こばやしじんろくろう

慶応元年(1865)年正月、京都を追われた三条実美ら急進派の公卿5人が太宰府へやって来ます(五卿落ち)、その翌年、幕府は太宰府天満宮に滞在中の五卿を大阪へ拘引する目的で目付小林甚六郎を派遣しました。この時期はちょうど、元治元(1864)年の禁門の変で「朝敵」と見做された長州藩の2回目の追討が行われる前後に当たり、別手組ら警備の者を含め総勢80人で博多に上陸した小林甚六郎は、3月末にその内19人を引き連れて二日市に入り(「送迎解釈紀事」)「延寿王院御用日記」、しばらくはそこで五卿送還実行の機会を窺うことになりました。



太宰府の文華

～公文書館だより⑮～

り込まれ、また大砲3台を曳いた大山綱良ら鹿児島(おおやまづなよし)の壮士100人による連日の北谷での発砲という威嚇にさらされ、小林は自身の使命がいかに厄介なものかを思い知らされます(「尾崎三良自叙略伝」)。「回天実記」。小林らはいったん博多に戻り、福岡藩主による慰労の饗応で愚痴をこぼすしかありませんでした(「送迎解釈紀事」)。

小林がようやく五卿と面会できたのは8月17日、6月に始まった長州再征が幕府側の失敗に終わった後のこと。小林は五卿の復官周旋を約束した上で臨みます。朝9時に二日市を發つた小林一行は途中「新町の瓦屋」で休憩を挟み、昼過ぎ頃太宰府天満宮へ到着、初めて五卿との面会を果たしました(「幕吏小林甚六郎来宰日記」)。

4月1日、小林甚六郎は二日市から太宰府へ入り、檢校坊において福岡・久留米・佐賀・熊本・鹿児島五藩の五卿警備担当者らと面談しますが、想定より遙かに小林の任務遂行は難しく、五卿との対面すら許されずに天満宮参詣だけでの日は二日市へ戻りました。その4日後、小林は黒田清綱率いる鹿児島藩の兵児組30人に抜刀せんばかりの勢いで逗留先に乗

五卿を正義と見る後の歴史では、小林は顔色を無くして逃げ帰った悪役として語られますが、京阪方面の情報収集が主な目的とはいえず、帰路、大阪までの守護を兼ねた同行の申し出が五藩からあったのは(「来宰日記」)、彼への同情を含めての配慮かと想像します。

【バックナンバーはこちら】 ページID7241